

令和 6 年 1 1 月 2 7 日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

西会津町長 薄 友喜

市町村名 (市町村コード)	西会津町 (07405)
地域名 (地域内農業集落名)	野沢4地区 (芝草、芹沼、堀越、塩喰、牧、安座)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 6年 5月30日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、認定農業者を中心とした担い手が他の地区と比べて比較的多い地区である。認定農業者は、大規模団地がある堀越が2名、牧が3名、安座が2名となっており、比較的大規模な農業経営を行っている。

しかし担い手が耕作する水田が点在している状態であることから集約化を図り、作業の効率化を図ることが喫緊の課題となっている。

さらに、有害鳥獣(イノシシ、クマ等)の出没により年々被害が増加している為、電気柵や未利用果樹木(主に柿)の伐採など町の指導を仰ぎながら、被害防止策を実施する考えである。

また、後継者や担い手不足なども大きな課題であり、耕作者が不在となった農用地については、農地中間管理機構を活用した集積により団地化を図っていく必要がある。

【地域の基礎的データ】

地域の担い手: 芝草6名、芹沼1名、堀越10名、塩喰1名、牧12名、安座24名

主な作物: 水稻、そばなど

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・後継者がいない農地に関しては、農地中間管理機構へ貸付け、地域の担い手への集積、集約化を図る。
- ・有害鳥獣防止対策では、電気柵や檻の設置、未利用果樹木の伐採や利活用などの対策を進める。
- ・基盤整備事業については、地元負担もあるため今のところは考えていない。
- ・保安全管理では、そば等を作付けし、遊休農地の解消を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	66.8 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	66.8 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、認定農業者等の担い手への農地の集積を推進し、効率化、省力化を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針
後継者不在の農用地については、農地中間管理機構に貸付け、担い手の経営意向や所有者の貸付け意向を踏まえ、段階的に集約化を図っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
基盤整備事業に関しては特に考えていないが、集約化が進み必要に応じて実施していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域内で多様な経営体を募り、経営体の意向も踏まえながら、県や町などの関係機関とも連携し、自治区としても必要な支援を行っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
鳥獣被害防止対策では、猟友会に協力を求め連携して取組んでいく。 作業の効率化が期待できる農業のスマート化やAI技術導入については、西会津町農業公社やJAなど関係機関との連携又は委託により、農作業の効率化を図っていく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①鳥獣被害防止対策では、集落点検マップ(電気柵や檻の設置状況、被害場所等を地図にしたもの)を作成し、また農道法面の環境整備を進め、地域ぐるみで具体的な被害防止対策を検討し進める。
 ①イノシシ対策では、年1カ所程度、計画的に田に電柵をつけていく。
 ③スマート化やAI化については、西会津町農業公社やJAなど関係機関とともに、実用化に向けて取り組みを検討していく。
 ⑦保全管理では、新たにそばなどの作付けを行い、農地の利用や耕作放棄地の解消を図っていく。
 ⑦保全管理等では、中山間地域等直接支払制度等に取り組み、今後休耕田が増加しないように管理の強化に努める。